

あきる野市教育委員会 3 月定例会会議録

- 1 開催日 平成30年3月22日(木)
- 2 開催時刻 午後2時00分
- 3 終了時刻 午後3時06分
- 4 場所 あきる野市役所 5階 505会議室
- 5 日程 日程第1 議案第10号 あきる野市文化財保護審議会委員の委嘱について  
日程第2 議案第11号 あきる野市有形文化財の指定について  
日程第3 報告事項(1) 平成29年度学力調査結果について  
日程第4 報告事項(2) 平成29年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果について  
日程第5 教育長及び教育委員報告
- 6 出席委員 教 育 長 私 市 豊  
教育長職務代理者 田野倉 美 保  
委 員 丹 治 充  
委 員 小 西 フミ子  
委 員 坂 谷 充 孝
- 7 欠席委員 なし
- 8 事務局出席者 教 育 部 長 小 林 賢 司  
指 導 担 当 部 長 鈴 木 裕 行  
生涯学習担当部長 佐 藤 幸 広  
教育総務課長 宮 田 健一郎  
教育施設担当課長 岩 崎 徹  
学校給食課長 宮 崎 勝 央  
指 導 担 当 課 長 間 嶋 健  
生涯学習推進課長 松 島 満

スポーツ推進課長	吉岡賢
図書館長	山根悟
指導主事	雑賀亜希
指導主事	若泉寿人

9 事務局欠席者 なし

開会宣言 午後 2 時 0 0 分

教育長（私市 豊君）

それでは、時間になりましたので、始めたいと思います。

一昨日の 20 日には中学校、そして今日の午前中小学校の卒業式が行われまして、教育委員さん、また幹部職員の方には告辞をしていただきました。ありがとうございました。

それでは、ただいまからあきる野市教育委員会 3 月定例会を開催いたします。

本日は、教育委員全員が出席しており、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 3 項に規定する定足数に達しておりますので、会議は成立しております。

それでは、議事日程に従って会議を進めたいと思います。

まず、議事録署名委員の指名については、田野倉委員と坂谷委員を指名します。

それでは、議事に入ります。

日程第 1 議案第 10 号あきる野市文化財保護審議会委員の委嘱についてを上程します。

本件は、人事案件ですので、非公開で会議を進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

《異議なし》

教育長（私市 豊君）

それでは、非公開で会議を進めます。

＝非公開＝

教育長（私市 豊君）

質問等がないようですので、質疑を終了いたします。

日程第 1 議案第 10 号あきる野市文化財保護審議会委員の委嘱については、原案のとおり承認することに異議ございませんか。

《異議なし》

教育長（私市 豊君）

異議なしと認めます。

日程第 1 議案第 10 号あきる野市文化財保護審議会委員の委嘱については、原案のとおり承認されました。

続きまして、日程第 2 議案第 11 号あきる野市有形文化財の指定についてを上程します。

説明を生涯学習担当部長、お願いいたします。

生涯学習担当部長（佐藤幸広君）

それでは、議案第 11 号あきる野市有形文化財の指定についてご説明をいたします。

提案理由でございます。平成 30 年 1 月 26 日付あ教生発第 72 号によりあきる野市文化財保護審議会に諮問した森山神社本殿、御獄神社の懸仏の 2 件について、平成 30 年 2 月 21 日付で答申があったため、あきる野市文化財保護条例第 4 条第 1 項の規定により、あきる野市有形文化財の建造物及びあきる野市有形文化財の歴史資料に指定したいので、委員会の承認を求めるところでございます。

説明につきましては以上でございます。よろしくご審議のほどお願いいたします。

教育長（私市 豊君）

説明が終わりました。

これから質疑に入ります。

質問等がありましたら、お願いをいたします。いかがでしょうか。

これは、前回審議会委員のほうに諮る案件で皆さんにはご審議をいただいておりますので、よろしいでしょうか。

生涯学習推進課長。

生涯学習推進課長（松島 満君）

済みません。せんだって教育委員会でご報告させていただいたときに、別紙1のほうになります。所有者、森山神社で氏子総代、山本常雄という形で議案の内容にさせていただいております。当初宗教法人というような位置づけで認識していたものですから、宮司の名前で入っていましたが、宗教法人格ではないということを確認させていただきまして、所有者につきましては前回お出ししたものと、申しわけございません、変わっております。調査の結果、氏子総代の山本常雄さんが代表者、所有者になっています。

また、2件の物件につきまして、所有者のほうから指定することについての同意、前回お話ししました消防法の適用等、いろんな関係する部分がございますので、そちらにつきましては確認をさせていただいて、承諾はいただいておりますことを申し添えます。

以上です。

教育長（私市 豊君）

今の説明等に何かございますか。よろしいですか。

小西委員。

委員（小西フミ子君）

今お名前が個人的なものであるということですが、例えばお名前が変わる、この所有者が変わった場合はどのようになるのですか。

教育長（私市 豊君）

生涯学習推進課長。

生涯学習推進課長（松島 満君）

あくまでも指定の段階で今この所有者のお名前指定をさせていただきます。変更になった場合には、所有者の変更の届け出というのがございますので、その都度申請をしていただいて、こちらのほうでは所有者の名前を変えて対応させていただくという形になります。

教育長（私市 豊君）

では、よろしいですか。

《なし》

教育長（私市 豊君）

それでは、質問等がないようですので、質疑を終了いたします。

日程第2 議案第11号あきる野市有形文化財の指定については、原案のとおり承認することに異議ございませんか。

《異議なし》

教育長（私市 豊君）

異議なしと認めます。

日程第2 議案第11号あきる野市有形文化財の指定については、原案のとおり承認されました。

続きまして、日程第3 報告事項（1）、平成29年度学力調査結果について、報告者は説明をお願いします。

雑賀指導主事。

指導主事（雑賀亜希君）

報告事項（1）、平成29年度の学力調査の結果について報告いたします。

資料は、A3判のものが全部で6枚になります。最初の3枚が平成29年度全国学力・学習状況調査結果、4枚目、5枚目が平成29年度東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査結果、そして最後に6枚目が平成29年度あきる野市学力向上調査結果になります。

まず、全国学力・学習状況調査の概要についてご説明申し上げます。本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることや学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることなどを目的に、平成29年4月18日に実施いたしました。調査の対象は、小学校第6学年の全児童、中学校第3学年の全生徒でございます。調査の内容は、国語、算数、数学の教科に関する調査と学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査でございます。

教科に関する調査につきましては、主として知識に関する設問Aと主として活用に関する設問Bに分かれております。平成29年度の教科に関する調査結果についてご説明申し上げます。

小学校、中学校の国語A、B問題ともに、全体的に全国的の平均正答率に比べて下回る結果でございました。しかし、中学校では領域や設問によっては全国や東京都の平均正答率を上回る項目もございました。資料の値は、正答率を全国、東京都、あきる野市で比較したものです。国語、算数、数学のどちらも小学校、中学校ともに下回っていることがわかります。ただし、平成25年度小学生だった児童が平成28年度中学生になったとき、平成26年度小学生だった児童が平成29年度中学生になったときの全国、都との差を見ますと、差は小さくなっており、一定程度の成果があったと言えます。

2枚目、3枚目は、児童生徒質問紙の結果です。小学校では、家庭での学習習慣が身についていないこと、授業で学んだことが他の学習やふだんの生活に生きている実感が弱いということがわかりました。特に学習時間が1時間未満と回答している児童が5割程度おり、テレビやゲーム、インターネット等利用している時間が多いことがわかりました。小学校の中にはノーメディアデーを設けて家庭でテレビやゲームの時間を1時間以内にしようという取り組みを行っている学校もあります。家庭でのルールづくりの徹底を呼びかけていくことで解決の糸口が見つかると考えております。

また、授業で学んだことが次の学習につながるという見通しや生活の中で役に立つ、将来の人生に役に立つという理解ができると、児童の学習意欲が高まります。自分の考えを

持たせ、発表する機会をつくる、既習の学習を活用する機会を設定するなど、授業改善で学んだことが他の場面で生きることを実感させていく必要があると考えております。

また、中学校では、将来の目標を達成させるための手だてについて子供と話し合えていない、話し合い活動を通して個の考えを再構築する機会をつくれていないということが課題であることがわかりました。ここでは、家で自分で計画を立てて勉強していくことなど、家庭での生活時間において目標を定めて指導していくことが大切ということで、主体的になって自分自身の生活時間を考えていくということが大切ではないかと考えております。

また、話し合い活動を通して考えを磨かせ、一段とすぐれたものにするには、教師が魅力的な課題を設定し、自己の考えを持たせる時間を十分にとるなど、授業改善が必要と考えております。自己の考えを構成するに当たっては、考えの根拠が大切となります。その根拠として、先人の知恵、知識の受信も大切です。読書が好きかという質問項目では、肯定的な回答をした生徒の割合があきる野市では63.1%でしたが、東京都では68.6%、全国では69.9%とあきる野市の値は低い結果が出ております。長期休業日などを活用して読書活動を一層推進していくことを目指していきたいと考えております。

続いて、平成29年度児童・生徒の学力向上を図るための調査、東京都の結果についてご報告申し上げます。まず、調査の概要についてご説明いたします。本調査は、平成29年7月6日、東京都の小学校第5学年の児童、中学校第2学年の生徒全員を対象に、小学校は国語、社会、算数、理科、中学校は国語、社会、数学、理科、英語の各教科で実施されました。夏季休業期間中に各学校で採点を行ったものをもとに、結果が公表されております。調査内容につきましては、学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況に関する調査と読み解く力という東京都が定めた必要な情報を正確に取り出す、取り出した情報を比較、関連づけて読み解く、読み取った内容を理解、解釈、推論して課題を解決するという3つの段階で課題を解決する力に関する調査となっております。

なお、本調査により測定できる学力は、特定の一部であり、学習指導要領に示された基礎的、基本的な知識や技能を身につけることはもとより、みずから学ぶ意欲や態度、高度な判断力、表現力などの知識や能力まで含めた力を学力と捉えていますことを申し添えさせていただきます。

資料につきましては、A、B、C、Dと全体を4分割、4分位したものをグラフ化してあらわしております。あきる野市を東京都と比較しますと、小学校では上位層といわれるA、B層が少ないことがわかりますが、中学校になりますと上位層といわれるA、B層の割合が東京都と比較的近くになっていることがうかがえます。ただし、下位層でありますD層への支援というところがまだまだ課題であることもわかります。

次のページの資料につきましては、各教科ごとに示したものとなっております。

続いて最後に、平成29年度あきる野市学力調査、小学校第4学年、中学校第1学年の結果についてご報告をいたします。まず、調査の概要についてご説明申し上げます。本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握し、指導方法の改善につなげるために平成29年11月の下旬、各学校の実態に応じた日程で市内の小学校第4学年と中学校第1学年全員を対象に実施いたしました。調査は、教科に関する調査として算数、数学を実施いたしました。

資料のグラフですが、単元ごとの結果を示しております。小学校では5%の有意差で見ると、角、式による表現の単元は有意差があると言えます。経年比較でも角の単元は苦手であることがわかります。中学校では、5%の有意差は見られず、大きな差異は見られませんでした。4分位の到達度スコアを見ても、A、B層とC、D層の割合を小学校と比較すると、全国との割合の差が縮まっていることがわかります。単元としての苦手分野も小学校ほどないことがわかりました。しかし、作図への興味を持っている、図や表を活用して考えているという設問に対して否定的な回答をした生徒が多く、また既習事項を復習している、日常生活へ活用しようとしているという設問では小学校、中学校ともに否定的な回答をした児童生徒の割合が高く、課題と言えます。小学校では、小数の計算について経年でも全国平均を上回っていることから、小数の計算、単元の指導方法を振り返り、苦手な単元の指導方法の改善に生かしていくことが求められます。また、あきる野市として既習事項の復習については家庭学習との連携も含め今後の課題として学校へ指導してまいります。

教育委員会では、校長会等において基礎基本の定着を図るための指導法の工夫改善の取り組みを推進していくと指導してまいりました。各学校では、実態に応じた授業改善を進めております。東京都の事業であります学力ステップアップ事業を平成27年度から、市の事業である学力ジャンプアップ事業を実施してきた中で、各学校では少なからず学力向上への成果があったと言えます。市の事業でもあります学力ジャンプアップ事業は、今後も継続して取り組んでまいります。各小中学校が児童生徒の実態に応じた取り組みがされるようこれからも指導助言してまいります。

報告は以上でございます。

教育長（私市 豊君）

ありがとうございました。

報告が終わりましたが、結構資料が多いので、なかなかこれをぱっと理解するのは難しいとは思いますが、何か気がついたこと等ありましたらご質問を受けたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

坂谷委員。

委員（坂谷充孝君）

説明ありがとうございます。この学力調査等の結果というところを見ると、東京都、それから全国と比較すると低い点数だったという結果、全体的に言うとなかなかの分布というのわかるのでしょうか。

教育長（私市 豊君）

指導担当課長。

指導担当課長（間嶋 健君）

分布でございますが、詳細なものはありますが、まず東京都の資料をごらんください。これが大きく分けてA、B、C、D層ということで書いてありますが、5枚目では、こちらがいわゆる点数の分布を大きく4分割しております。東京都は人数で分けています。A層は上位25%、B層は上位26%から50%までというおおよそのこれが個々の、1人

1人の点数の割り振りになってきます。教科ごとにそれを見ようとすると、次のページで先ほど指導主事から報告があったとおりでございます。同様な感じで、点数であれば市学力向上調査のほう、緑の最後の6枚目ですが、これもA、B、C、D層というのが入っております。こちらは、スコア別という書き方をしていますので、到達度のスコアを上位層、中位層、下位層、これは人数で分けておりません。点数での上位層、スコアごとに分けているというやり方ですとこういったものを統計学上のカウントをしていて、業者なりの割り振りでこんなような形で割り振るということになります。

別途この数値別、問題数で何問解けた子が何人いるという資料をこちらのほうでは一応保持はしておるところでございますが、本日は持参してはおりません。

以上でございます。

教育長（私市 豊君）

坂谷委員。

委員（坂谷充孝君）

ありがとうございます。市内の分布というのは、今よくわかりました。東京都の中で、受けた市町村ですとか学校ですとか、どういう単位で受けているのか。市町村なのでしょうか。その分布です。あきる野市の分布が例えば国語Aが68点、51点、73点、39点と出ていて、東京都の平均値が76点、60点、81点、49点と出ています。この東京都の平均と比べるの意味だとは思いますが、その東京都の中での点数分布というのがどうなっているかなというのを、例えば福生市ですとか羽村市ですとか、そういうこの学力調査を受けたところの分布というのがどうなって平均が76なのかという、そういうのは出るのでしょうか。

教育長（私市 豊君）

指導担当課長。

指導担当課長（間嶋 健君）

過度な競争をあおらないということなので、そのものについての各地区ごとの数字というものは出てまいりません。ただ、東京都の各点数が、1問しかとけない子とか全問正答した子が何人いるとか、そういった数字はもちろん出てはおります。あくまでこの資料というのは我々の施策に生かす、または子供たちの取り組みをどうやって改善していけば伸びていくかというところの資料でございますので、他市の状況ではなく、本市の実態、これをどう捉えてどう直すかというところで対処しております。例えば資料で先ほどの5枚目でございますが、平成26、27と28、29、各教科分けておりますが、26、27と28、29を縦のラインで線を引いていただいたときに、若干学年差はありますが、D層は減っているのではないかという見取りもできます。そうすると、このときの28年や29では何をしているか、ジャンプアップやステップアップの取り組みの可能性はあるのではないかなど。そうならば、この辺の26、27はついていませんので、その辺のところの取り組みとしての意味はあるのではないかと。一方で、市の学力調査の結果を分析いたしますと、図や表を活用して考えるとか既習事項を復習するという取り組みについてはかなり厳しい結果が出ております。これは、復習が家庭学習ということもありましたが、こちらが常にいろんな補助をしていますので、こういった学校での自主的、主体的に学ぶと

いうところについて、子供たちに今度どう支援していくのか。こちらが補助をしてD層のお子さんたちに援助をしていけば、伸びてはいきますが、やっぱり最終的には子供たちがみずから学びたいと思うような授業改善、工夫をしていくことでこの数値が上がっていくとより成績が伸びていくのではないかというような解釈もできます。それから、角が非常に悪いということでございます。これドリル学習をするなどのところをやって基礎基本の力をつけていきますが、計算問題等をやれば当然伸びていくと考えられますけども、そういったところに対して角が取り組みで、この苦手なところは例えば三角定規をつけたときの角度を調べるとか数えるとか、そういった感覚的なこういうようなことここがついているのだから、何度と何度だよねとか、そういった学びをする機会を今後はふやしていく必要があるのではないかと、そういったところを今後教員の学習を、学力向上委員会等を含めて検討するようなデータとして扱っていきたいというふうに考えています。

以上でございます。

教育長（私市 豊君）

坂谷委員。

委員（坂谷充孝君）

ありがとうございます。例えばジャンプアップ、ステップアップを通して取り組んできたことの結果として引き続き続けていこうとか、そういったことを考えるのはもちろん当然だと思いますけど、他の市町村等と比較をするというよりも、平均値でこれが出ているということは、この平均値よりももっと高い点数をとったところもあるのだらうなと思うのです。だとすると、都市でどういうふうにやったらいいだろうかということを考えていくことももちろん必要だと思いますし、現場の先生方も一生懸命やっつけらっしゃる。それだけではなくて、どういうふうに取り組んでもっといい結果が出ているのかということ全体に聞くのではなくて、ピンポイントでいい結果が出ているところに取り組む方を学ぶということも重要なのではないかなというふうに思ひまして、各受けたところの値が出ているのかということをお伺いしました。何らかの形で他、よそのところとの交流というのは持っていらっしやると思いますけれども、これからもより学力というところまでつながるような連携というところでほかのところからも学んでいただきたいなというふうに思います。

以上です。

教育長（私市 豊君）

ほかにございますか。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

まず、1ページ目の先ほどご説明あったように平成25年度の子供たちが28年度中学生になったときの統計資料としては、今東京との差、このポイントが縮まってきているという点でやっぱり効果があったし、指導室の取り組みのほうも各学校よく指導していただいた結果だろうというふうに思います。そして、実は3ページ目あたりの中で、例えば家庭での学習習慣がついていない、あるいは平日のテレビだとかゲームだとか、その他のインターネットなど通じて、この辺のいわゆる個々の児童あるいは生徒と正答率のクロス集

計あたりは、そういう資料などはあるのでしょうかね。

教育長（私市 豊君）

指導担当課長。

指導担当課長（間嶋 健君）

こちらのほうとしては別に用意してはいないのですが、数値等の割合というのは作成することは可能でございます。

教育長（私市 豊君）

丹治委員。

委員（丹治 充君）

そうすると、東京都の平均から推しはかかっていくと、学力が何ポイントか少ない。あるいは、全国平均で見ても低いということになってくると、例えば学習時間、宿題の時間が少ない、物理的に学習時間が少ないということになれば、当然のことながら正答率もあきる野は低いというような、そういう単純に考えていいのかどうか。個々の子供たちのいわゆる正答率と、それからインターネット等活用した時間とのクロス集計があれば、その辺がよりはっきり出てくるのかなと思って、そんな質問をさせていただきました。そんな見方でよろしいのでしょうかね。

教育長（私市 豊君）

指導担当課長。

指導担当課長（間嶋 健君）

坂谷委員、それから丹治委員から今宿題をいただいたと思ひまして、資料を参考に整理させていただいて、またご報告できるようにしたいと考えております。ありがとうございます。

教育長（私市 豊君）

ほかにかがでしよう。

またじっくり見ていただきまして、どこか機会がありましたら質問等していただければと思います。どうしても東高西低という、これはもうはっきりしていますね。市部の中でも、26市の中でも西多摩の4市、やはり東に比べると軒並み低いです。どこの教育長も何でだろうと、西多摩で集まるとどうにかねという話になりますね。本当に似ています。

区部、それから市部も東のほうが平均が高いです。大体東京都の平均を上回っていますね。

委員（丹治 充君）

通塾率なんていうのはどうですかね。

教育長（私市 豊君）

塾ね。それもあると思いますね。塾へ通っている。

委員（丹治 充君）

先生なんかよくご存じですよ。

教育長職務代理人（田野倉美保君）

やはり子どもの学力には家庭環境というのはかなり影響が大きいというふうに感じます。家庭やふだんの生活の中で社会問題についてですとか、そういった会話が家族の中で出ているような家庭で育ったお子さん、ご両親や保護者の方が学校の勉強がどんなことをやっ

ているのかとか、子どもがどこまで理解しているのかというのを常に把握しているような家庭の方と、やはり余りそういったことに関心がないご家庭で育ったお子さんというのは、学習に関する意欲ですとか取り組みですとか読書習慣ですとか、差がついてきてしまっているのかなという感じはします。ただ、今この結果をいただいて感じたことは、学校もいわゆる学力というものに対しての取り組み方が随分変わってきているなということです。私は教育委員になって六、七年になります。最初の頃は何を教えるかということからどう教えるか、今度の新しい学習指導要領によると、教えた結果何ができるようになるかという、そういった形で学校の先生方の取り組み方も随分変わってきていると思うんですね。なので、現段階ではこの結果なんですけれども、これから先自分たちが教えた結果、子供たちが何を身につけて、それをどう生かしてこれから成長していくかというところに視点を持って授業を改善して教えていただけるはずですので、それを期待して見守っていきたいというふうに思っています。

教育長（私市 豊君）

ありがとうございます。本当に私も小学校の成績と中学校の結果を見ると、小学校のときにはこのあきる野もそうだし、いわゆる西多摩地域の子供たちって勉強の仕方がわかっていないのではないかなというふうに思うのです。気がついていない。中学行ってようやくああ、勉強ってこういうふうにするのだと気がつくから、成績上がるという。もともと能力は私はあると思っています。ただ、家庭学習が少ないというのものもあるけども、勉強をどうやっていいのかわからないという部分では余り心配はしていません。本気出せばできるんだという、多分そういうものを持っているのではないかなというふうに思います。感想ですけれども。

よろしいですか。

《なし》

教育長（私市 豊君）

それでは、本件は報告として承りました。

続きまして、日程の第4 報告事項の(2)、平成29年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果について、報告者は説明をお願いします。

若泉指導主事。

指導主事（若泉寿人君）

報告事項(2)、平成29年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査結果についてご報告いたします。

A3横に2枚つづりのものをごらんください。こちらは、平成29年6月に実施しました東京都統一体力テストにおける調査結果とあきる野市の結果を比較分析したものです。

初めに、小学校の体力・運動能力の結果について報告いたします。1ページ目、小学校をごらんください。身長、体重が男女ともに東京都の平均値と比較いたしますと、体重では男女とも第1学年と高学年で上回っておりますが、ほかの学年では下回っていることがわかります。また、握力や上体起こしのような日常的に筋力を要するテスト項目については東京都の平均値を下回っておりますが、長座体前屈や投力といった柔軟性や投げる力は東京都の平均値を上回っております。下の八角形のグラフについては、各テスト項目の東

京都の平均値を100と見たときのあきる野市の平均値をあらわしたものです。今申し上げたような部分が100を上回ると外側に、100を下回ると内側に入っているのがわかるかと思います。また、右側にある身長と体重の折れ線グラフについては、東京都の平均値を100とし、本市の平均が100を下回った際には身長では青い線、体重では緑の線の下に折れ線グラフが書かれております。

続きまして、2ページ目、中学校の結果です。中学校につきましても男子の身長、体重及び女子の身長については、東京都の平均値を下回っておりますが、体重では男子で第1学年、女子では第2学年だけ東京都を上回っております。東京都の平均と比較し、各項目において優位性が見られますが、比較的筋力が弱いことがわかります。その一方で、全体的に女子の体力は第1学年以外東京都の平均を上回っております。男子についても、握力や持久走、50メートル走、ソフトボール投げにおいて全ての学年において東京都の平均を上回る結果となっております。こちらも小学校と同じように男子、女子ともに体力調査の項目や身長、体重をグラフにまとめましたほか、改めて小学校や中学校の体力調査結果から読み取れたもの、その傾向を右下にまとめましたので、後ほどごらんいただければと思います。

なお、東京都の平均は全国に比べると低いので、次年度以降も都の平均を超えることを基本とした指導を各校で行えるよう指導助言行ってまいりたいと思います。

以上で報告を終わります。

教育長（私市 豊君）

説明が終わりました。

質疑に入ります。

何か質問等ございますでしょうか。いかがでしょうか。

田野倉職務代理人。

教育長職務代理人（田野倉美保君）

この体力調査につきましては、質問事項のような形で、例えば中学校ですと運動部の部活動に所属している生徒とそうでない生徒の違いとか、そういったものの違いというのがわかるようなデータというものはあるんですか。そういうのはないんですか。

教育長（私市 豊君）

どうでしょうか。指導担当課長。

指導担当課長（間嶋 健君）

こちらは個別のデータを集めているものでございますので、こちらの個別のデータをこの子が運動部なのかというのを学校とちょっと連携をとらないとデータとれないというところがあります。その辺のところクロス集計も重要なところでありますので、再確認などでしっかりつくるようにしていきたいなと思います。

教育長職務代理人（田野倉美保君）

一般的に考えると、中学校で運動部に参加していらっしゃる生徒さんは、すごく体力、運動能力がプラスの方向に働いて、逆に中学校になって運動部に所属していらっしゃる生徒さんというのは、身体を動かす機会が学校の体育の中だけになってしまうと思うんですね。もう少し気軽に、部活動じゃない形でも運動を楽しんだり体力向上の形で取り組

めるようなものがあれば、全体的にもっと上昇していけるのかなというふうに感じましたので、質問させていただきました。

以上です。

教育長（私市 豊君）

ありがとうございます。

小西委員。

委員（小西フミ子君）

田野倉委員のお話に関連しまして、10校あるあきる野市の小学校で学校見学に行ったときに、中休み時間に必ず全校児童のほとんどの子たちが一斉に校庭を何周か走るのが日課であるという学校がありました。学校別によってもそういう学校の値は高くなっていると思いますが、その違いが判る資料はありますか？

教育長（私市 豊君）

指導担当課長。

指導担当課長（間嶋 健君）

学校別の資料はございます。その辺のところは、各持久走旬間とか縄跳び旬間とか、そういうことに取り組んでいる学校がどういったところかということはデータとしてはそろえられますので、そういった取り組みの優位性なども見られるのではないかと考えます。

教育長（私市 豊君）

小西委員。

委員（小西フミ子君）

それは、そういうことを行っている学校が値をたくさんこの中に反映されているということですかね。

教育長（私市 豊君）

指導担当課長。

指導担当課長（間嶋 健君）

学校の学力についても波があると同じように、その学年特性というものも若干ございます。その数値がどこにはっきりと出てくるのか、学校が取り組んでいるから100%出るというよりも、そのお子さんがそのことをやって伸びたというのを学年を追って見るとか、そういったことのほうがよいかというふうに考えられます。また、小さい学校などは、やっぱり苦手なお子さんが数人いるだけですがくっと変わったり、数値も変わってきたりしますので、そういうところも学校での特性というのは若干見ることはできますが、参考になるかどうかというのはデータを見比べないとわからないところです。

教育長（私市 豊君）

ほかに。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

意外だったのが、小学校男子の長座体前屈ありますよね。これは、全部東京都平均よりも上ですよ。ところが、中学生になってくると、全部下回っていますね。この辺なんかは中学生になって突如筋肉が固くなって、そんなふうに読み取れちゃうのですけども、た

だこれは測定の仕方なんかも関係ないでしょうかね。どうなのでしょう、これ。

それから、反復横跳び、これ恐らく跳ぶ姿勢あたりを見るのかなとは思いますが、これも同じですね。小学校の男子のほうは下になっていますけども、中学生1年生、2年生あたりも下回っていますが、この辺は正確な測定という点ではあり得ないですよ。その辺は聞く機会ありませんかね。

教育長（私市 豊君）

指導担当課長。

指導担当課長（間嶋 健君）

この資料の一番上段を読んでいただければわかるのですが、4月、5月に調査方法を児童に十分指導した後というふうに書かせていただいております。この調査を6月に実施するというのは、東京都からの指導もありまして、指導方法の確認、それから実際にやる子供たちの指導も十分やってからということで一応やることにはなっております。ただ、やはり当然低学年のお子さん、1年生のお子さんにこれだけの項目を指導するというのは大変でございますし、やっているといいながらも全員のことを見ていくとその辺のところは学校の実態があるかなというところはご了承いただければと思います。

以上でございます。

委員（丹治 充君）

非常に先ほどは学習の問題でも出たのですが、里山が近かったり、あるいは川があったりということで、そういう自然の中で育つ子供たちですから、元気な、あるいは運動能力のすぐれた子供たちに育ってほしいなという思いが強いんですけどね。

教育長（私市 豊君）

坂谷委員。

委員（坂谷充孝君）

ありがとうございます。体力、この調査の項目で、身長、体重ってなかなか自分ではどうしようもない部分であったりするのかなと思います。ただ、握力であったり上体起こし等々につきましては、自分を取り組めば数値が向上していくものだというふうに思います。これが恐らく1年に1回だけはかれる。それだと、去年どうだったかなってなかなか自分では覚えていなかったりするのかなと思います。全部の項目をというのは難しいとは思いますが、握力であるとか、学校で握力計を廊下に置いてという学校もありましたけれども、自分で2カ月、3カ月置きぐらいに向上していつている様子が見てとれると、もっとやってみよう、もっとやってみようというところにつながって、結果的に体力向上につながるのではないのかなと思います。

学力向上は見てとれるかという、ずっと同じ問題を解いているわけではないので、なかなかよくなったり、そうじゃなかったりなるとは思いますけれども、体力向上については自分でやって向上させるということがかなりできる部分だと思いますので、この調査結果のきょうは報告ですけれども、それを今後に生かしていくというところで、1年に1回ではなくということもちょっと考えてみてはどうかなと思いました。

以上です。

教育長（私市 豊君）

ありがとうございます。

よろしいですか。

《なし》

教育長（私市 豊君）

それでは、本件は報告として承りました。

続きまして、教育長及び教育委員報告に入ります。

私のほうから報告をさせていただきます。

3月の3日に行いました多摩子ども詩集表彰式で、表彰式が終わった後、教育長一堂に会しましたので、そのときに来年度以降この表彰式をどうするかというのが課題になっています。というのが、今までは予算面で余裕があったというのですか、プールしていたお金があったので、予算上は問題なかったのですけれども、ここに来てもうその予算面で尽きちゃったと。ですから、来年度以降どうするんだというのがその協議会の中で課題になっているという提案がされました。この多摩子ども詩集、非常に歴史も古いですし、なくすというのはもったいないという話があって、じゃ予算面の話と、あと教職員の負担の話ですね。負担がかなりあるので、その辺をどうするかという、来年度以降また協議会の中で、じゃどういう方向で行くんだということを検討するというところで終わっております。30年度は、檜原村さんが会長になりますので、檜原村さんが中心になって校長会なり教育長会議でどうする、どういう方向で行くんだということを協議するようなことになるかなというふうに思っております。

今までずっとキララホールで表彰式を行って行っていました。キララホールについては、有料ということで、その辺の負担もある。この間の話の中では、羽村のゆとろぎだったら無料でできるという話も出ていますし、どこかの体育館でもやってもいいのではないか等、いろんな意見が出ているのですけれども、そういう面で予算のところはクリアをしていったらどうかという話も一応出ております。またどういう方向に行くのかというのが決まりましたら、報告をさせていただきたいというふうに思います。

それから、もう一点、挨拶の中でも申し上げましたけれども、卒業式については小学校、中学校、どこの学校、私は西中学校と南秋留小学校に行きましたけれども、非常にいい卒業式だなという、声も大きいし、しっかり歌を歌えるし、態度もいいし、返事もいいしということで、本当に素晴らしい児童生徒だなというのが私の印象でした。

私からは以上でございます。

では、田野倉職務代理者。

教育長職務代理者（田野倉美保君）

今教育長からもお話ありましたが、やはり中学校と小学校の卒業式、児童生徒とも非常に立派な態度で厳かな式に臨んでいたと思います。伸び伸びと、また感動的に、特に合唱とか歌というのが一番心を揺さぶるものがありまして、非常によかったと思います。

それ以外に私は3月の1週目に中学校の合唱コンクールが5校あったのですけれども、4校に行かせていただきました。その合唱コンクールにおいても、本当に青春ってこういうものかなという、一つのことにみんなで力を合わせて目標に向かって取り組む、そのすばらしさというものを改めて感じさせていただきました。

ちょっとその中で1つ提案があるのですけれども、どの学校の合唱コンクールも課題曲、中学3年生は「大地讃頌」になっていますね。成人式のときに、以前あきる野市の少年少女合唱団のリトルエコーズさんをお願いしていたときに、毎年「大地讃頌」を歌っていただいていたと思うのですが、団員の減少ということで、ここ二、三年は「大地讃頌」ではない曲目を歌っていただいていると思います。20日の卒業式でも歌われていましたが、卒業式でも歌うし、合唱コンクールでも歌うし、多分あきる野市の中学校を卒業して「大地讃頌」を歌ったことがないという生徒さんはいらっしゃらないと思います。できれば成人式場で会場全体で一斉に歌うような場面があると、その当時の思い出もよみがえり、またここから新たに一步を踏み出すんだというような思いもできるかなというふうに感じましたので、今後検討の材料にさせていただければと思ひまして、提案させていただきました。

以上です。

教育長（私市 豊君）

生涯学習推進課長、何かありますか。

生涯学習推進課長（松島 満君）

前に「大地讃頌」をやっていたようにですね。たしかに人数が少なくて、非常に対応について苦労しているところがあります。今後人数をふやして行って対応したいというような話を伺っておりますので、ちょっと調整をさせていただければというふうに思っています。

教育長職務代理者（田野倉美保君）

例えば歌っていただくのではなくて、会場みんなで一緒に歌うとか、ちょっとやり方を考えるといいのかなと思います。あとは、他市の話ですけども、学校現場も大変だとは思いますが、合唱コンクールで優勝した中学校の現役の中学生に歌ってもらっているような地区もあるというようなお話も聞いたので、どのようにしたら余り負担なく実現できるかというのを考えていただけるといいかなと思います。

教育長（私市 豊君）

ありがとうございました。

ほかに。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

私は、印象に残ったのは実はきょうの卒業式です。銀座のほうではアルマーニの標準服が物議を醸しているところですけども、きょう東秋留小学校の卒業式で感じたのは、今までで一番羽織はかまの女子児童が多いなということで、ざっと数えたら30名はいたのではないですかね。逆に洋服だとか、そういう服装の女子児童が非常に少なかったですね。ですから、そういった点で、恐らくはやりになっていけば、成人式ではないですが、紋付羽織の児童が大半を占めるようになってくると、家庭の負担もちょっと大変だろうななんていうような、そんな印象を受けましたね。たしか昨年度教育長のほうからもそんなお話伺ったかなと思うのですが……

教育長（私市 豊君）

そうですね。

委員（丹治 充君）

他の学校はどうだったのか、その辺も一度指導室のほうで調査をしていただいて、場合によっては、男子生徒には標準服という点でふだんからの指導も入ったようですね。ですから、教育委員会としても情報を持つ必要があるのではないかなと、思ったものですから、お話しさせていただきました。

以上です。

教育長（私市 豊君）

ありがとうございます。

指導担当部長。

指導担当部長（鈴木裕行君）

今の卒業式の服装の件ですけれども、市内の学校の中には校長の方針ということで、校長というか、学校の方針ということで羽織はかまはなしというふうに年度当初から指導を入れて保護者に理解を求めて卒業式を迎えている学校もあります。調査はしておりませんが、そういう学校の方針として着なくていいという形にしているところもありますので、これを現時点では学校の判断、校長の判断ということで扱っております。今後教育委員会としてどうするかということが必要なのかどうかも含めて検討はしたいと思っております。

以上です。

教育長（私市 豊君）

小西委員。

委員（小西フミ子君）

私は、またきょうは別の意味で、きょうは前田小だったのですけれども、去年他の学校ではかま姿が多かったと、初めての教育委員になってからの卒業式だったものですから、驚いたんですね、今こんな時代なんだということで。その驚いた数に比べたら、前田小は少なかったです。そして、個人個人の衣装が、よそはよそ、自分は自分という感じの印象をすごく受けましたね。いろんな格好をされているのですけれども、ちゃんとした格好ですけど、それほど周りを気にしていないなという印象をととても受けて、去年と違う、学校によって違うんだなという思いがありました。

それから、あともう一つ感じたのは、増戸の中学の卒業式は、もう特別ほかとは違う、小中でずっと一緒だった子たちが別れるという、本当の初めてのみんながばらばらになっていくという気持ちがあらわれるので、本当にぐっと初めての別れなんだなと思って、それを何かとても感動的な、歌一つとっても何度も涙が出てきそうな雰囲気、とてもいい式でしたけれども、そんな印象でした。

教育長（私市 豊君）

ありがとうございます。

坂谷委員。

委員（坂谷充孝君）

本日私教育委員になって初めて卒業式に参加をさせていただきました、一の谷小学校に行かせていただきました。着物での参加されている児童はいらっしゃいませんでした。皆

様洋服でした。印象に残ったのは、子供たちの姿勢です。話を聞いているときももちろんそうですけれども、着座してから椅子に、背に背中をつけないんですね。深くは腰かけていますけど、腰を立てて、しっかり座って手をこういうふうに組んでいるんですね。しっかり前を向いて校長先生や来賓の方のお話を聞いている姿が卒業生だけかと思ったら、そうじゃなくて、在校生もみんなびしっと座っていたのです。すばらしい学校だなと思いました。これが一番印象に残ったことです。

あとは、式典ですので、装飾をしたりとか、こういうふうにしつらえるというのがあると思うのですけれども、それをしっかりやりながら、その後に別れの会という名前だったと思いますけれども、在校生と卒業生とで対面になって言葉をかけ合ったり歌を歌い合ったりという場面がありましたけれども、それはそれで幕があったのを幕をとればその飾りが出てくると。場面の転換ができるような形で式典もしっかりやって、その後の会も行うという工夫をされているのを見まして、締めるところはしっかり締めて、感動的といいますか、子供たち同士でお別れをする場面もつくっていらっしゃるところの工夫に、ああ、そういうやり方があるんだなと思ひまして、いい卒業式に参加させていただきました。

以上報告、ありがとうございました。

教育長（私市 豊君）

ありがとうございました。本当にどこの学校もすばらしい卒業式だなというふうに思います。来月、今度は入学式がごございますので、これもまたきつといい入学式をやってくださいというふうに思っております。

それでは、これで教育長及び教育委員の報告は終了いたします。

最後に、事務局から今後の日程等についてご案内をお願いいたします。

教育総務課長。

教育総務課長（宮田健一郎君）

それでは、今後の日程等につきましてご案内をさせていただきます。この時期ですので、年度またぎの予定となっております。

初めに、3月30日金曜日でございますが、午後2時30分から市役所5階503会議室におきまして退職教職員辞令伝達式及び退職校長辞令申告式を開催いたします。

なお、この日ですが、臨時議会の関係で若干時間の変更があるかもしれません。変更があった場合には、再度ご連絡をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

続きまして、4月2日月曜日でございます。午後2時30分から市役所5階503会議室におきまして教職員辞令伝達式及び新規採用教職員辞令伝達式を開催いたします。

続いて、4月6日金曜日ですが、小学校の入学式、また4月9日月曜日ですが、中学校の入学式となります。

4月20日金曜日でございます。教育施策連絡会が中野サンプラザで開催されます。午後2時開始の予定でございます。市役所を午前11時に出発いたします。協議会の内容につきましては、詳細がまだわかっておりませんので、わかり次第ご案内をさせていただきます。

4月24日火曜日でございますが、東京都市町村教育委員会連合会第1回理事会が東京

自治会館で午後2時から開催をされます。田野倉教育長職務代理者が理事となっております。12時50分に市役所を出発したいと思います。よろしくお願いいたします。

最後に、次回、4月の定例会でございますが、4月27日金曜午後2時から505会議室で開催いたします。

以上でございます。

教育長（私市 豊君）

特に何かございますか。よろしいですか。

《なし》

教育長（私市 豊君）

以上をもちまして、あきる野市教育委員会3月の定例会を終了いたします。

閉会宣言 午後3時06分